

第 25 回秩父宮記念スポーツ医・科学賞 受賞者のコメント

	功労賞受賞者 徳永幹雄氏	奨励賞受賞者 代表 杉田正明氏
秩父宮記念スポーツ医・科学賞の受賞の感想をお聞かせください。	現在、84歳になりました。受賞は「最後の最後」の受賞と思っています。東京から遠く離れた九州の出身者が、このような晴れがましい賞を頂くなんて、大変光栄なことだと思っています。	大変名誉な賞をいただき光栄に思っています。ありがとうございました！ サポート活動は、私1人ではできません。他のメンバーそれぞれが役割を担ってくれてグループとして機能できたことが嬉しいです。また、サポートは、選手や指導者、その他関係者との協働作業ですから、皆さんが我々の活動に対して信用し理解いただき、協力してくれたからこそ、ある一定の成果に結びついたといえます。関わってくれた全ての方々に感謝の気持ちしかありません。
スポーツの研究者を目指す若者にアドバイスをお願いします。	大学院や若手研究者は、最初は幅広く学問の広領域に関心をもってほしい。そして、次第に自分の関心を狭め、テーマを4-5年にしぼってまとめ、新しいテーマを次々と設定して行ってほしい。最後は世のため、人のため、何をすべきかを考え、教育、研究、そして社会的貢献を目指して、頑張ってください。	好奇心や興味を持ち続けることと、根気・粘り強さは大事です。創造力・想像力を養うために、当たり前だと思われることを疑う、違う角度から見るのが大切だと思います。頭でっかちではなく手を動かしてデータ収集を続けることも大事だと思います。また、色々な先生（国内外）のところに顔を出してどんなことをしているのか見せてもらうこと、先生と話すことが、自分の価値観を壊す（ブラッシュアップする）意味でいいと思います。新たな気づき、刺激を得ることが多いのではないかと思います。
スポーツの良さ・価値をどのようにお考えになっていますか。	私がしてきたスポーツには、学生時代の水泳、サッカーと就職後のテニスのクラブ活動がある。そこでは、自分を磨き、達成感を高めた。保健体育教官としては、全学生にスポーツの楽しさを教えた。クラブ活動の指導者としては、努力と達成感の楽しさを教えた。研究者としては、調査や指導を繰り返し、スポーツ心理学の研究に従事し、自己実現の欲求に挑戦してきた。そして、定年退職後のスポーツは、人生の楽しみ、生きがいとして、現在はスポーツ彫刻やテニス、ウォーキングに明け暮れています。スポーツには多様性と階層的な楽しさがある。	スポーツには、はかり知れない力があります。ワールドカップやオリンピック等に帯同して見えた景色からは、国籍や人種、言語、文化などが違ったとしても、正々堂々と競い合い、死力を尽くして共に戦ったりすることで共感が生まれることや、様々な喜怒哀楽を共有することで互いに通じ合う感情（友情）が育まれていることを強く感じました。また、スポーツは人生の縮図ともいえ、勝ち負け、成功、失敗、栄光、挫折を通して精神が磨かれる素晴らしい文化だと思います。